

社会資本総合整備計画 事後評価書

令和08年03月31日

計画の名称	1 2 折尾駅周辺地区における連続立体交差事業と連携したアクセス道路整備												
計画の期間	平成31年度 ~ 令和05年度 (5年間)										重点配分対象の該当	○	
交付対象	北九州市												
計画の目標	J R折尾駅周辺の連続立体交差事業の進捗に合わせて、J R折尾駅へのアクセス道路や駅前広場の整備を実施することで、J R折尾駅周辺地域のアクセス機能の強化、快適性や利便性の向上を図るとともに、まちのシンボルやにぎわいの核を創出する。												
全体事業費(百万円)	合計(A+B+C+D)	1,012	A	808	B	0	C	204	D	0	効果促進事業費の割合C/(A+B+C+D)	20.15	%

番号	計画の成果目標(定量的指標)			
	定量的指標の定義及び算定式	定量的指標の現況値及び目標値		
		当初現況値	中間目標値	最終目標値
1	アクセス機能や交通結節機能の強化及び交通渋滞の解消、さらには、北九州市の西部地域の都市拠点として、魅力あるまちづくりに向け、鉄道の立体交差化、街路事業の4車線化及び北口駅前広場の整備、土地区画整理事業を一体的に行うことで、快適かつ利便性の高い市民生活を確保することが期待される。 駅周辺街路及び駅前広場整備によるJ R折尾駅と周辺主要交差点との移動利便性向上を平均旅行速度により表現 平均旅行速度 = (距離) / (一定区間における所要時間)	16 km / h	km / h	19 km / h

備考等	個別施設計画を含む	-	国土強靱化を含む	-	定住自立圏を含む	-	連携中枢都市圏を含む	○	流域水循環計画を含む	-	地域再生計画を含む	-
-----	-----------	---	----------	---	----------	---	------------	---	------------	---	-----------	---

A 基幹事業																				
基幹事業(大)	番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接間接	事業者	種別1	種別2	要素となる事業名 (事業箇所)	事業内容 (延長・面積等)	市区町村名/ 港湾・地区名	事業実施期間(年度)					全体事業費 (百万円)	費用 便益比	個別施設計画 策定状況	
												H31	R02	R03	R04	R05				
一体的に実施することにより期待される効果																				
備考																				
道路事業	A01-001	街路	一般	北九州市	直接	北九州市	S街路	改築	日吉台光明線	L = 1.5km、駅前広場 A = 9,800m ²	北九州市八幡西区						808	-		
											小計						808			
											合計						808			

C 効果促進事業

基幹事業（大）	番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接間接	事業者	種別1	種別2	要素となる事業名 （事業箇所）	事業内容 （延長・面積等）	市区町村名 / 港湾・地区名	事業実施期間（年度）					全体事業費 （百万円）	費用 便益比	個別施設計画 策定状況
												H31	R02	R03	R04	R05			
一体的に実施することにより期待される効果																			
備考																			
道路事業	C01-001	道路	一般	北九州市	直接	北九州市	-	改築	ホーム上屋等景観整備事業	新駅舎、ホーム上屋A=1,560㎡、防風スクリーンL=140m	北九州市八幡西区						204	-	
基幹事業で行う駅前広場整備と合わせて、ホーム上屋等景観整備事業を行うことで、快適性やまちのシンボル・にぎわいの核としての機能を高めることができる。																			
											小計						204		
											合計						204		

事後評価

事後評価の実施体制、実施時期	
事後評価の実施体制	事後評価の実施時期
【実施体制】 北九州市都市整備局折尾総合整備事務所事業調整課が事後評価を実施 【評価値の確認方法】 学識経験者に意見聴取を実施 (北九州市立大学 地域戦略研究所 内田教授、九州工業大学 大学院工学研究院 寺町教授)	令和7年度
	公表の方法
	北九州市ホームページに掲載
事業効果の発現状況	
定量的指標に関連する 交付対象事業の効果の発現状況	日吉台光明線において予定していた4車線化が完了していないが、用地買収等に合わせ工事を進めており、着実に事業進捗している。 平成30年度末に連続立体交差事業によって、筑豊本線が高架化されたことで、日吉台光明線の踏切が除去されたため、踏切での交通遮断がなくなり、一定程度、移動利便性が向上している。
定量的指標以外の交付対象事業の 効果の発現状況（必要に応じて記述）	新設・改築された車道や広幅員歩道の整備が着実に進み、駅周辺の回遊性と利便性が格段に向上している。
特記事項（今後の方針等）	
平成30年度末に連続立体交差事業によって、筑豊本線が高架化されたことで、日吉台光明線（国道199号）の国道踏切が除去されたため指標（数字）として効果の発現は見られないが、踏切での交通遮断がなくなり、一定程度、移動利便性が向上している。 今後、連続立体交差事業の進捗によって工事ができなかった箇所は拡幅工事を進め、4車線化を行うことで、駅へのアクセスが格段に向上するため、次期整備計画の中で事業進捗を高めていくことで、交通結節機能の強化を図るとともに、駅周辺の利便性や快適性の向上を図っていきたい。	

社会資本総合整備計画 参考図面

計画の名称	12 折尾駅周辺地区における連続立体交差事業と連携したアクセス道路整備		
計画の期間	平成31年度～平成34年度(4年間)	交付団体	北九州市

